

民生委員・児童委員調査結果データ

1 調査概要

【調査対象及び回収の状況】

調査対象者 町田市内の民生委員、主任児童委員 244 名
有効回答件数 156 件（有効回収率 63.9%）

【調査方法】

直接配付、郵送による回収

【調査期間】

2012 年 10 月

2 調査結果の見方

- ① 設問の回答者数はNで表示している。
- ② 集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
- ③ 標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、回答者数（N）=156 とする場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下記の通りである。

各回答の比率	5% 又は 95%	10% 又は 90%	15% 又は 85%	20% 又は 80%	25% 又は 75%	30% 又は 70%	35% 又は 65%	40% 又は 60%	45% 又は 55%	50%
標本誤差	±1.24%	±1.70%	±2.03%	±2.27%	±2.46%	±2.60%	±2.71%	±2.78%	±2.83%	±2.84%

- ④ 統計的検定結果については、5%水準に*印を、1%水準に**印を、それぞれ付記した。
- ⑤ 自由回答の集計については、内容ごとに分類し集計した。

3 回答者の属性

1) 担当地区

○回答者の担当地区は下表の通りである。

問 10 回答者の担当地区

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=156
町田第一地区	21	13.5	13.5
町田第二地区	23	14.7	14.7
南第一地区	22	14.1	14.1
南第二地区	15	9.6	9.6
鶴川第一地区	15	9.6	9.6
鶴川第二地区	17	10.9	10.9
忠生第一地区	16	10.3	10.3
忠生第二地区	15	9.6	9.6
堺地区	12	7.7	7.7
無回答	0	0.0	—
全 体	156	100.0	100.0

2) 民生委員・児童委員歴

○民生委員・児童委員歴は、平均6.5年である。

問 11 民生委員・児童委員歴

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=154
2年未満	14	9.0	9.1
2～4年未満	34	21.8	22.1
4～6年未満	32	20.5	20.8
6～8年未満	15	9.6	9.7
8～10年未満	25	16.0	16.2
10～15年未満	23	14.7	14.9
15年以上	11	7.1	7.1
無回答	2	1.3	—
全 体	156	100.0	100.0
平 均	N=154	6.5年	

4 調査結果

1) 「若者の自立」に関する相談の状況について

(1) 担当地区内の「ひきこもり」の傾向にあると思われる方について

○担当地区内にひきこもり傾向にある人がいると回答した人は40.4%であった。
○対象者の性別、年齢について回答しない方が多かった。回答の中では、男性の30歳代の人が多いが、男女とも10歳代から50歳代以上まで幅広い分布がみられる。

問1(1) 担当地区内の「ひきこもり」の傾向にあると思われる方について

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=149
はい	63	40.4	42.3
いいえ	86	55.1	57.7
無回答	7	4.5	—
全 体	156	100.0	100.0

問1(1)-1 担当地区内の「ひきこもり」の傾向にあると思われる方の人数

			なし	1人	2人	3人	4人	無回答	全体	平均 (人)	平均 (人) (0を除く)
件数	男性	10歳代(小・中学校在籍)	53	6	2	1	1	0	63	0.3	1.7
		10歳代(中学校卒業後)	58	3	2	0	0	0	63	0.1	1.4
		20歳代	49	13	0	1	0	0	63	0.3	1.1
		30歳代	40	20	1	2	0	0	63	0.4	1.2
		40歳代	51	10	2	0	0	0	63	0.2	1.2
		50歳代以上	56	6	1	0	0	0	63	0.1	1.1
		小 計		58	8	4	1	0			
	女性	10歳代(小・中学校在籍)	54	8	1	0	0	0	63	0.2	1.1
		10歳代(中学校卒業後)	59	3	1	0	0	0	63	0.1	1.3
		20歳代	60	3	0	0	0	0	63	0.0	1.0
		30歳代	57	6	0	0	0	0	63	0.1	1.0
		40歳代	54	9	0	0	0	0	63	0.1	1.0
		50歳代以上	56	7	0	0	0	0	63	0.1	1.0
小 計		36	2	0	0	0					

(2) 「ひきこもり」または「ひきこもり」の傾向にあると思われる方に関する、相談・情報提供について

- 相談や情報提供を受けたことがあると回答した人は26.3%である。
 ○対象者の性別、年齢について回答しない方が多かった。男女とも10歳代から50歳代以上まで幅広い分布がみられる。

問1(2) 「ひきこもり」又は、「ひきこもり」の傾向にある方に関する
 相談・情報提供の有無について

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=127
はい	41	26.3	32.3
いいえ	86	55.1	67.7
無回答	29	18.6	—
全 体	156	100.0	100.0

問1(2)-1 「ひきこもり」傾向にあると思われる方の人数

			なし	1人	2人	3人	4人	無回答	全体	平均 (人)	平均 (人) (0を除く)
件数	男性	10歳代(小・中学校在籍)	33	5	1	1	1	0	41	0.3	1.8
		10歳代(中学校卒業後)	39	2	0	0	0	0	41	0.0	1.0
		20歳代	32	8	1	0	0	0	41	0.2	1.1
		30歳代	36	5	0	0	0	0	41	0.1	1.0
		40歳代	34	6	1	0	0	0	41	0.2	1.1
		50歳代以上	36	5	0	0	0	0	41	0.1	1.0
		小 計		31	3	1	1	0			
	女性	10歳代(小・中学校在籍)	33	8	0	0	0	0	41	0.2	1.0
		10歳代(中学校卒業後)	39	1	1	0	0	0	41	0.1	1.5
		20歳代	37	3	1	0	0	0	41	0.1	1.3
		30歳代	35	6	0	0	0	0	41	0.1	1.0
		40歳代	39	2	0	0	0	0	41	0.0	1.0
		50歳代以上	37	3	1	0	0	0	41	0.1	1.3
		小 計		23	3	0	0	0			

(3) 相談・情報の提供元について

○相談・情報提供を受けたことがある41名に聞いたところ、「ご家族からの相談」と「教育機関からの相談・情報提供」が最も多く各14件、次いで「近隣の方からの相談・情報提供」(11件)、「行政機関からの相談・情報提供」(9件)となっている。

問2 相談・情報の提供元について(複数回答)

	件数	割合 N=41	割合 (除無回答) N=41
ご家族からの相談	14	34.1	34.1
近隣の方からの相談・情報提供	11	26.8	26.8
自治会・町内会からの相談・情報提供	1	2.4	2.4
教育機関からの相談・情報提供	14	34.1	34.1
行政機関からの相談・情報提供	9	22.0	22.0
交番・警察・消防からの情報提供	0	0.0	0.0
その他	3	7.3	7.3
無回答	0	0.0	—
全 体	52	—	—

問2 相談・情報の提供元について(具体的な機関名)

	機関名
教育機関	小学校・中学校(7件)
行政機関	生活援護課(5件)
	子ども家庭支援センター
その他	社会福祉協議会
	前任者

(4) 相談・情報提供を受けた後の対応

- 相談・情報提供を受けた後の対応については、「その他」が最も多く 18 件、次いで「訪問や電話相談を行った（行っている）」（15 件）、「行政機関、専門機関に相談した」（14 件）が多い。
- 「その他」の具体的な内容は表の通りである。

問 3 相談を受けた後の対応（複数回答）

	件数	割合 N=41	割合 (除無回答) N=41
訪問や電話相談を行った（行っている）	15	36.6	36.6
行政機関、専門機関に相談した	14	34.1	34.1
他の民生委員・児童委員に相談した	8	19.5	19.5
自治会・町内会の役員に相談した	2	4.9	4.9
その他	18	43.9	43.9
無回答	0	0.0	—
全 体	57	—	—

問 3 相談を受けた後の対応：「その他」の内容

内 容	(件)
見守っている	6
家族と話をしている、家族への情報提供	5
本人から話を聞いている、本人への情報提供	2
今後訪問予定	1
交番との打ち合わせ	1
対応していないが対応困難	1
訪問しているが応答がない	1
合 計	17

(5) 相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこと

○相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこととして最も多かったのは「対応方法がわからない」、「こちらからの働きかけを拒否、無視される」という意見であった。また「見守ってくださいと言われたが、具体的にどのようにしたらよいかわからない」、「精神疾患の方への接し方がわからない」など、全体として当事者や家族との関わり方について課題と感じている状況がうかがえる。

問4 相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこと（自由回答）

内 容	(件)
対応方法が分からない	5
こちらからの働きかけを拒否、無視される	5
見守りの場合、対応が難しい	4
精神疾患の方への接し方がわからない	3
近隣住民が困っている（騒音等）	3
家族が隠したがる	2
本人・家族の態度（問題とっていない）	2
個人情報取り扱い	2
その他	5
合 計	31

2) 「ひきこもり」等に関する相談支援機関やサービスについて

(1) 相談支援機関やサービスの利用経験の有無

○利用したことのある相談機関やサービスについては、無回答が多く、回答者の半数以上が無回答であった。また「いずれの機関にも相談したことがない」が47件であった。
 ○利用した件数が最も多かったのは「町田市保健所」(8件)、「上記以外の市役所の担当課」(7件)、「病院・診療所」(5件)、「その他」(5件)と続いている。「上記以外の市役所の担当課」については、全て「生活援護課」である。

問5 相談支援機関やサービスの利用経験の有無(複数回答)

	件数	割合	
		N=156	割合 (除無回答) N=73
町田市保健所	8	5.1	11.0
町田市子ども家庭支援センター	3	1.9	4.1
町田市教育センター・教育相談	1	0.6	1.4
町田市内の学校の適応指導教室	1	0.6	1.4
上記以外の市役所の担当課	7	4.5	9.6
町田市社会福祉協議会	2	1.3	2.7
東京都ひきこもりサポートネット	1	0.6	1.4
東京都の児童相談所	2	1.3	2.7
東京都精神保健福祉センター	1	0.6	1.4
ハローワーク	0	0.0	0.0
地域若者サポートステーション	0	0.0	0.0
病院・診療所	5	3.2	6.8
民間の支援団体やカウンセリングルーム	2	1.3	2.7
その他	5	3.2	6.8
いずれの機関にも相談したことはない	47	30.1	64.4
無回答	83	53.2	—
全 体	168	—	—

問5 利用したことのある相談支援機関やサービス:「その他」の内容

その他の内訳
高齢者支援センター(2件)
仲間の民生委員
学校
交番

(2) 利用した相談支援機関やサービスの対応について

○記載のあった主な意見は以下の通りである。

問5-1 利用した相談支援機関やサービスの対応について

- ・ 家族に次回お会いできたときに話すヒントをもらうことができた。
- ・ 本人だけでなく、家族にも気遣いがあり、安心することができた。
- ・ みんなで支え合うという意志が感じられた。
- ・ 対応の助言・協力が得られた。
- ・ よく話を聞いてくれた。
- ・ 親切で丁寧な対応だった。
- ・ 期待した支援は受けられなかった。
- ・ 「本人の意思を尊重」という点が、現実とずれているようでもどかしく思った。
- ・ 対応方針が相談者としては不満足だった。
- ・ 現状では、見守り以上の方法はなかった。
- ・ 対応については了解したが大きな進展はなかった。

(3) 若者の自立支援に関わる、地域ならではの取組みについて

○記載のあった意見は以下の通りである。

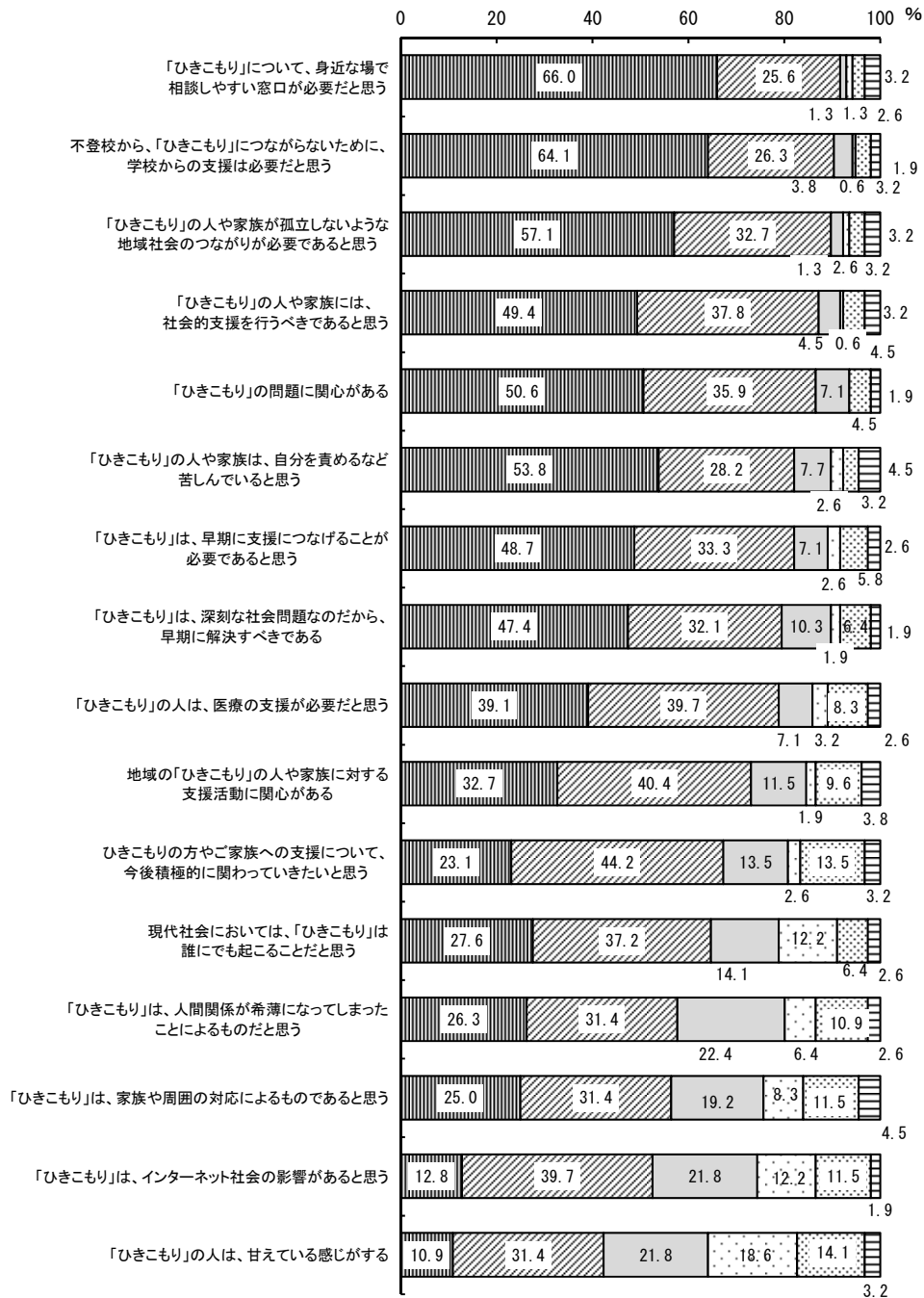
問6 若者の自立支援に関わる、地域ならではの取組みについて

- ・ 地域活動へ声かけする（祭りやイベントの手伝いなど）。
- ・ 自立支援にも段階が必要と思う。ひきこもりの年代、状態も様々です。チラシや回覧、ネットでの広告はどうだろうか（個人で話を聞いてもらいたい、数人と会っても大丈夫等）。
- ・ 短時間で次にも行きたいと繋げられるような活動場所やプランニングはどこが提供するのだろうか。
- ・ 若者だけでなく、リストラなどで40代のひきこもりがいる。
- ・ 行政が支援活動、居場所を作る、考えるべきとも思う。

3) 「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援について

○社会的支援の必要性や早期支援の必要性について8割が肯定しており、地域の支援活動には7割が関心をもっている。

問7 「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について



N=156

■そう思う ■少しそう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない ■どちらともいえない ■無回答

問7 「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

		そう 思う	少し そう 思う	あまり そう 思 わない	そう 思 わない	どち ら も い え ない	無 回 答	全 体	
件数	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	103	40	2	2	4	5	156	
	不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	100	41	6	1	5	3	156	
	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	89	51	4	2	5	5	156	
	「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う	77	59	7	1	7	5	156	
	「ひきこもり」の問題に関心がある	79	56	11	0	7	3	156	
	「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	84	44	12	4	5	7	156	
	「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う	76	52	11	4	9	4	156	
	「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	74	50	16	3	10	3	156	
	「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	61	62	11	5	13	4	156	
	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある	51	63	18	3	15	6	156	
	ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていききたいと思う	36	69	21	4	21	5	156	
	現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	43	58	22	19	10	4	156	
	「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	41	49	35	10	17	4	156	
	「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	39	49	30	13	18	7	156	
「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	20	62	34	19	18	3	156		
「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	17	49	34	29	22	5	156		
割合	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	N=156	66.0	25.6	1.3	1.3	2.6	3.2	100.0
	不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	N=156	64.1	26.3	3.8	0.6	3.2	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	N=156	57.1	32.7	2.6	1.3	3.2	3.2	100.0
	「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う	N=156	49.4	37.8	4.5	0.6	4.5	3.2	100.0
	「ひきこもり」の問題に関心がある	N=156	50.6	35.9	7.1	0.0	4.5	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	N=156	53.8	28.2	7.7	2.6	3.2	4.5	100.0
	「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う	N=156	48.7	33.3	7.1	2.6	5.8	2.6	100.0
	「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	N=156	47.4	32.1	10.3	1.9	6.4	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	N=156	39.1	39.7	7.1	3.2	8.3	2.6	100.0
	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある	N=156	32.7	40.4	11.5	1.9	9.6	3.8	100.0
	ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていききたいと思う	N=156	23.1	44.2	13.5	2.6	13.5	3.2	100.0
	現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	N=156	27.6	37.2	14.1	12.2	6.4	2.6	100.0
	「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	N=156	26.3	31.4	22.4	6.4	10.9	2.6	100.0
	「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	N=156	25.0	31.4	19.2	8.3	11.5	4.5	100.0
「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	N=156	12.8	39.7	21.8	12.2	11.5	1.9	100.0	
「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	N=156	10.9	31.4	21.8	18.6	14.1	3.2	100.0	

- 一般市民調査（問 7）と比較すると、全体的にひきこもりの問題への関心が高く、支援の必要性、早期解決の必要性について、一般市民よりも高い割合で支持している傾向がみられる。
- また「家族や周囲の対応によるものだと思う」、「ひきこもりの人は甘えている気がする」等については、「そう思う」または「少しそう思う」の割合は、一般市民と比べて低くなっている。
- 「(15) 地域の『ひきこもり』の人や家族に対する支援活動への関心」について、「そう思う」または「少しそう思う」の割合は、一般市民調査では47.4%であったのに対して、民生委員調査では73.1%となっており、大きく上回っている。

問7 「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について
（一般市民調査との比較）

	民生委員調査 (N=156)			一般市民調査 (N=813)		
	そう思う +少しそ う思う	そう思わ ない+あ まりそ う思わ ない	どちらと もいえ ない	そう思 う+少 しそ う思 う	そう思 わ ない+あ まりそ う思 わ ない	どちら と も い え な い
「ひきこもり」の問題に関心がある	86.5	7.1	4.5	65.9	25.8	7.4
「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	79.5	12.2	6.4	77.1	15.9	5.8
「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	56.4	27.6	11.5	61.6	27.1	10.0
「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	57.7	28.8	10.9	62.5	28.0	8.4
「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	52.6	34.0	11.5	65.3	26.4	7.4
現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	64.7	26.3	6.4	66.8	28.8	3.8
「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	82.1	10.3	3.2	78.7	14.9	5.8
「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	42.3	40.4	14.1	65.7	23.5	10.0
「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う	87.2	5.1	4.5	78.6	15.6	4.9
「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	78.8	10.3	8.3	65.7	25.0	8.5
「ひきこもり」は、早期に支援につなげる必要があると思う	82.1	9.6	5.8	74.8	16.9	7.5
不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	90.4	4.5	3.2	83.2	10.7	5.3
「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	89.7	3.8	3.2	83.6	10.2	5.2
「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	91.7	2.6	2.6	91.0	5.7	2.5
地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある	73.1	13.5	9.6	47.4	38.5	12.5
ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていききたいと思う	67.3	16.0	13.5	—	—	—

※網掛け部分は、「そう思う+少しそう思う」の割合が高い方を示す

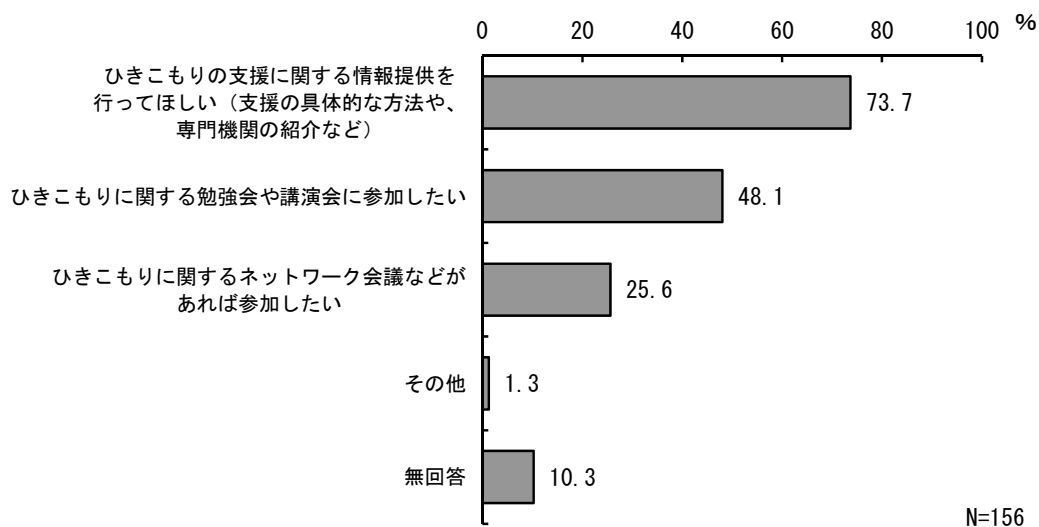
**1%有意

4) 「ひきこもり」の支援に関する今後の活動意向について

(1) ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること

○「ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい」(73.7%)、「ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい」(48.1%)、「ひきこもりに関するネットワーク会議などがあれば参加したい」(25.6%)であった。

問8 ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること（複数回答）



問8 ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること（複数回答）

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=140
ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい (支援の具体的な方法や、専門機関の紹介など)	115	73.7	82.1
ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい	75	48.1	53.6
ひきこもりに関するネットワーク会議などあれば参加したい	40	25.6	28.6
その他	2	1.3	1.4
無回答	16	10.3	—
全 体	248	—	—

5) 若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について (自由回答)

○事業の周知やいじめ・不登校対策など、積極的に取り組んでほしいという期待が高い。

問9 若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について (自由回答)

分 類	(件)	内 訳	(件)
積極的に事業の周知、PRをしてほしい	8		8
相談支援の充実、対応に努めてほしい	6	相談支援を充実してほしい	5
		幅広く対応してほしい	1
いじめ・不登校対策に取り組んでほしい	5		5
若者支援を強化してほしい	4	取組の強化	2
		専門部署の設置	1
		方針の明確化	1
実態把握が必要である	2		2
民生委員の活動に支援してほしい	4	情報共有の機会をつくってほしい	2
		学習機会を提供してほしい	2
就労支援を推進してほしい	4	雇用対策に取り組んでほしい	2
		コミュニケーション教育が必要である	1
		生保受給者の自立支援が必要である	1
コミュニティの強化・居場所づくりが必要である	4	地域コミュニティの強化が必要である	2
		若者の出会いの場が必要である	1
		家族の居場所が必要である	1
ひきこもり問題の背景についての意見	7	家族のあり方に要因がある	3
		教育のあり方に要因がある	2
		社会のあり方に要因がある	2
当事者・家族への対応が難しい	5		5
具体的なケースについて	5		5
その他	2	相談を受けた経験がない	1
		よく理解できていない	1
合 計	56		56